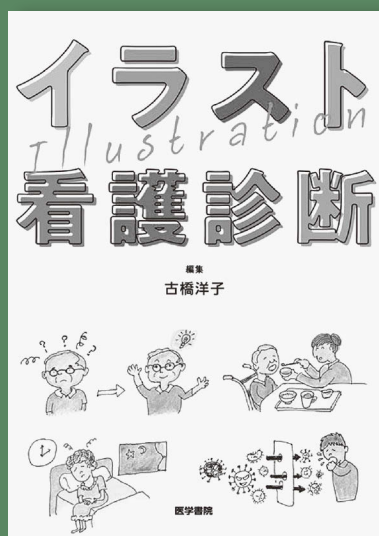


書評

イラストで楽しく学び、活用できる
看護診断の最新の学習書

イラスト看護診断



- 編集 古橋洋子
- 定価 2750 円 (本体 2500 円 + 税)
- 判型 A5 判
- 頁数 180
- 発行 医学書院

評者

前・公益社団法人福島県看護協会 会長
医療法人慈繁会土屋病院 副院長

高橋京子

本書の著者らはこれまでに看護過程や看護診断を導く情報収集などについて、長年にわたり解説書を系統立てて出版・改訂し、看護過程に沿ってどのようにケアを行い、記録するかについての教育にご尽力くださっている方々です。

現在、電子カルテが多くの病院に導入されています。しかし、電子カルテが導入されていても、看護情報からどのようにアセスメントし、考えたかについての記録があまり見られず、さらに入院患者の看護上の問題がパターン化している、との指摘もあります。

著者らはこれらの現状を見聞し、看護過程における「看護上の問題」すなわち「看護診断」をより分かりやすく、さらに活用しやすいものとするために、看護診断の定義や適応事例に「イラスト」を付け加えたらよいのではないかと考え本書の執筆に至ったと述べています。イラストには動きがあり、定義や関連因子をイメージしやすいので、新人からベテラン看護師まで幅広く、楽しく学び、活用できる「看護診断」の最新の学習書と言えます。

看護診断の基礎的知識の解説

本書は第1章と第2章の2部構成になっています。第1章「看護診断を理解するために」では、看護診断に関する基礎的知識について、順序立てて学習しやすいように解説されています。例えば2ページには、「看護診断は、臨床推論に基づいて患者の問題が何であるかを判定し、看護師が何をすべきかという臨床上の意思決定を含むものです」と、看護診断の本質が述べられています。

また、「看護の視点」である機能的健康パターンと情報収集のヒントが表1(5ページ)に示されており、入院時に看護師として何をどのように情報収集す

ればよいかが理解できます。これは医学モデルとの違いであり、看護が理論を踏まえて実践する根拠でもあるため、看護診断の理解には必須です。

使用頻度の高い
看護診断のヒントと事例

第2章「イラスト看護診断39」では、NANDA-I分類法の13領域に分類される267の看護診断のうち、臨床で頻回に使用されると思われる12領域の中で使用頻度の高い39の看護診断について、事例を基に診断の「定義」「関連因子」の考え方が解説されています。

そのため、情報を収集しアセスメントした内容が看護診断の「定義」と合っているかは事例を見れば分かります。また、「診断指標」は患者の症状であり、「関連因子」はその症状の原因であることも説明されています。そして、事例には必ずイラストがあり、看護診断をイメージしやすくしてくれています。定義や関連因子をイラストから読み解くこともできるので、楽しく学べ、活用しやすいと言えます。

理論を踏まえ専門職としての
仕事のために

「療養上の世話」は看護師独自の判断で行える領域です。機能的健康パターンに基づく看護の視点で患者情報を収集し、療養上の問題を的確に判断してこそ、理論を踏まえた看護の専門職としての活動になります。看護は理論を踏まえた専門職の「思考過程の基準」として「看護診断」を必要としていることを本書が示唆しています。

IT化の今こそ看護診断を看護実践の方法論として用い、看護実践に活かす時です。本書は看護診断についてとても分かりやすく書かれており、確かな看護診断へと導いてくれる待望の良書です。